

## 【さんすう】

「※」はべんきょうするときの せんせいからの アドバイスです。

<べんきょうすること>

◆「のこりはいくつ」（きょうかしよ 57～59 ページ）

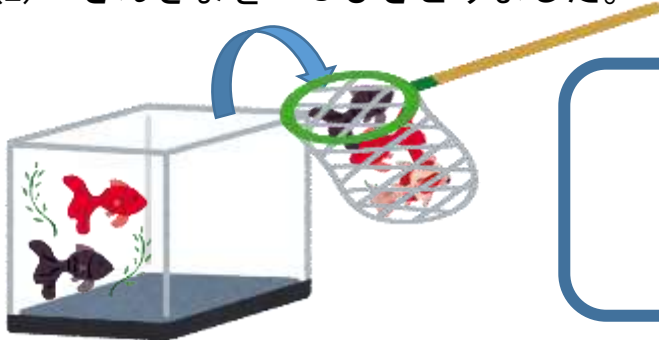
のこりは なんびきに なるかな？  
おはなしの とおりに <sup>ぶろっく</sup>ブロックをおいて うごかしてみよう

(1) すいそうに きんぎょが、 5ひきいます。

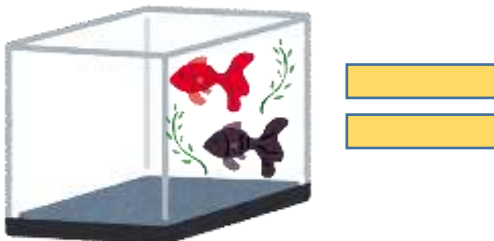


※わくのなかに ブロックをおきます。

(2) きんぎょを 3ひきとりました。



(3) のこりは  ひきになりました。



おはなしに あわせて  
ブロックを うごかすことが できるかな？

5あって 3とると、 2になります。  
これを さんすうのことば であらわすと…

しき  $5 - 3 = 2$   
5ひく3 は 2

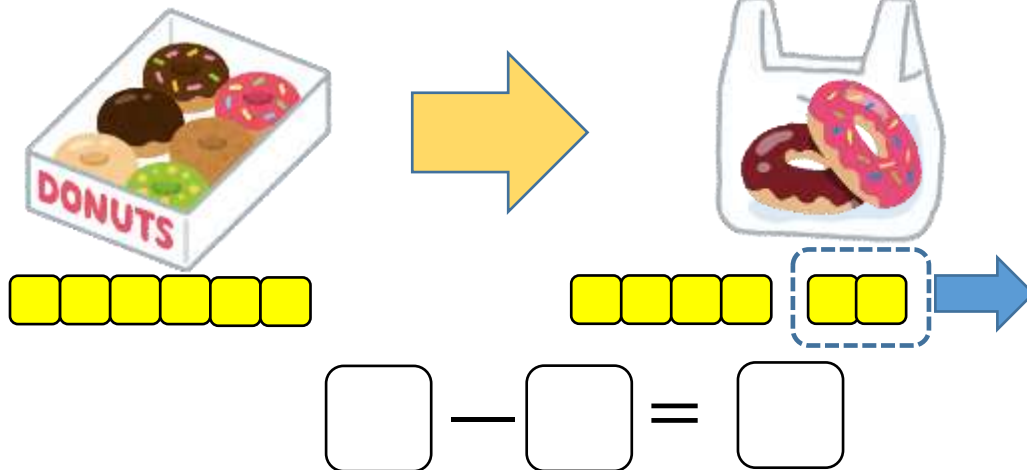
こたえ **2** ひき

※このような けいさんを **ひきざん** といいます。

えをみて ひきざんの しきに かきましょう。

はじめにドーナツが6こ

ドーナツを2こもちかえると



<じぶんで ひきざんの しきになる おはなしを かんがえて  
ノートやとりくみシートにかいてみよう。>

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

◆のこりはいくつ（教科書 P57～59）

- ・この課題から、ひき算の学習になります。ひき算の学習でも、式を立てる際に、ブロックやおはじき等、他のものに置き換えて考えたり、問題場面を「しき」という算数言葉で表したりすることが大事になります。
- ・ひき算では、ノートに図をかいたときに、「あったものがなくなる」という状況表現することになります。このことを、子どもは難しいと感じることがあります。ブロックを動かすという動作が式の意味とつながっていることが大事です。